



2022年8月4日

各位

上場会社名 東邦化学工業株式会社
代表者 代表取締役社長 中崎 龍雄
(コード番号 4409)
問合せ先責任者 取締役経理本部長 川崎 正一
(TEL 03-5550-3735)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

2023年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,500	800	680	450	21.10
今回修正予想(B)	27,400	290	190	120	5.65
増減額(B-A)	900	△510	△490	△330	—
増減率(%)	3.4	△63.8	△72.1	△73.3	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2022年3月期第2四半期)	23,781	612	1,010	634	29.75

2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	56,500	2,000	1,750	1,240	58.14
今回修正予想(B)	57,400	1,490	1,260	910	42.82
増減額(B-A)	900	△510	△490	△330	—
増減率(%)	1.6	△25.5	△28.0	△26.6	—
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	49,887	1,345	1,933	1,395	65.43

修正の理由

(1) 第1四半期の連結業績について

当第1四半期の連結業績は、売上高については概ね予想どおりに推移しましたが、一方、原材料価格・用役費が期初予想以上に急騰し、それに対応した製品価格の値上げが遅れたことにより、利益面は期初予想を下回りました。

(2) 第2四半期(累計)及び通期の連結業績予想について

第1四半期の実績及び現在の経営環境を踏まえ、第2四半期の業績予想を見直した結果、第2四半期(累計)及び通期の連結業績予想の修正が必要となりました。

第2四半期(累計)の連結売上高は、期初予想を超えた原料費・用役費の高騰に伴う売価の上昇により、期初予想をやや上回る見込みです。一方、第2四半期(累計)の利益面につきましては、期初予想を大きく下回る見通しです。利益の下振れの主な要因は、以下の4点です。なお、連結子会社のうち東邦化学(上海)有限公司、東邦化貿易(上海)有限公司及び懷集東邦化学有限公司の3社は、決算期が12月であり、2022年4月1日から6月30日までの業績が第2四半期の連結決算の対象となります。①第2四半期以降、製品価格の値上げ対応により利益率は改善に向かうものの、第1四半期の下振れ分を挽回するには至らない見込みであること。②東邦化学(上海)有限公司並びに東邦化貿易(上海)有限公司において、上海市のロックダウンによるマイナス影響が期初の想定よりも大きいこと。③中国石化上海石油化工股份有限公司(以下「上海石化」という)の爆発火災事故の影響で東邦化学(上海)有限公司の操業が一時停止したこと。④懷集東邦化学有限公司が主要な原材料として使用しているロジンの相場価格は、2020年末以降高値圏で推移していましたが、2022年4月以降、中国のゼロコロナ政策の影響による需要減少から大幅に値下がりしており、同社における在庫評価損の発生が見込まれること。

第3四半期以降は、第2四半期累計期間における利益の下振れ要因が概ね解消すると予想していることから、第3四半期以降の業績予想は期初予想から変更しておりませんが、第2四半期(累計)の業績予想の修正に伴い、通期業績予想を修正しております。

なお、上海石化の爆発火災事故後、上海石化から東邦化学(上海)有限公司への主要原料の供給は停止しており、供給再開の時期は不透明な状況ではありますが、東邦化学(上海)有限公司は、上海石化以外のサプライヤーから当該原料を調達し、生産活動を行っており、上海石化からの原料供給が停止していることによる業績への影響は軽微であります。

※上記の業績予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上